

第10回小樽市中小企業振興会議

【 議事録 】

日時：令和3年11月29日(月)14:00～15:30

会場：小樽市役所 第1委員会室（別館3階）

出席者：李会長、近久副会長、松田委員、大田委員、栗原委員、齋藤委員、馬場委員、
中田委員、佐橋委員、阿部委員、佐々木委員、亀山委員
事務局：産業港湾部長、産業港湾部次長、産業港湾部産業振興課長、
産業港湾部産業振興課主査、産業港湾部産業振興課主事

次第1：開 会

事務局 ただいまから第10回小樽市中小企業振興会議を開催いたします。本日の会議は、お手元の次第に沿いまして、概ね1時間半程度を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。なお、委員の過半数の御出席をいただいておりますので成立していることを御報告いたします。

次第2：意見交換

会 長 前は優先的に取り組むこととした二つの取り組むべき視点に沿った事業案について意見交換を行いました。その結果、就業支援、起業支援、情報発信、商品開発といった分野について取り組んでいくことといたしました。本日は一部修正された答申案と提言に基づく事業案、さらには今後の議題等が事務局より示されておりますので、闊達な御意見をいただければと考えております。それでは関連がありますので、資料1から資料3までを事務局から御説明いただければと思います。

事務局 <資料1「答申書案新旧対照表」について説明>
<資料2「答申書案」について説明>
<資料3「提言に対する事業案」について説明>

会 長 資料1及び資料2で説明がありました答申案について何か質問、御意見等はございますか。今まで議論した内容を前回の議論を踏まえ修正を行ったということで、御意見ありませんか。特にないようですので、答申書については案のとおりとします。
次に、資料3ですけれども、提言に対する事業案について、今後事業の詳細を決めていくということではありますけれども、制度設計を行う上で、是非こういった要素を盛り込んだ方がいいのではないかと、こういう視点で制度を決めていくべきではないかと、様々な御意見あるかと思っておりますので、是非皆さん全員から意見を伺いたいと思っております。委員お願いします。

委 員 セミナーの開催と情報発信のところにあると思うんですけれども、新製品を出す場合必ず著名なインフルエンサーに頼んで、その効果が無視できないということは聞いており

ます。やはりそういう人たちのプロの手を借りるべきではないかと。費用対効果はもちろんあると思いますが。うまくいっていると聞いております。小樽もオール小樽でブランドを立ち上げていくのならそういう方向に進んだ方がよろしいかと思っています。

会 長 ありがとうございます。大変貴重な御意見だったと思います。続きまして、委員お願いします。

委 員 提言に対する事業案と言うことで三つ立てていただいた柱、それぞれこれが実現すれば、前進すれば望ましいなという内容になっているかと思っておりますので、特段これに付加する意見等はございません。

会 長 ありがとうございます。では続きまして、委員お願いします。

委 員 提言2について意見を申し上げたいと思うのですが、事業承継に関する支援ということで、個別にヒアリングをして創業希望者に繋ぐという取組につきましては、素晴らしい取組だと思うのですが、苦労しているのは、事業承継の候補者はいるのですが、創業者の候補者がなかなかいないということが悩みとして抱えております。これはもう皆さん御承知のとおりコロナがあるので、なかなか創業に踏み切れないよという方がいっぱいいらっしゃるのかなと感じております。そうしたときに、創業したいと手を挙げてくれる人をどうやって発掘していこうかというのが非常に悩んでいるところでございまして、そういった観点で提言2の中身を見ると、②の創業支援補助金の見直しとあるのですが、これはもうある程度創業に向けて準備が進んで、ビジネスプランがしっかり固まったという方を対象にしているような施策でございますので、これにプラスアルファして、創業したいのだけれども一体何から準備していいのかわからないとか、ビジネスプランはどうやって作るのとか、そういったところの本当に創業の予備の予備軍から丁寧に拾って行って、最終的に創業支援補助金のところに繋げていくという一連の流れ、取組というのは必要じゃないかなと思えました。

会 長 ありがとうございます。続きまして委員お願いします。

委 員 今の提言2のところの同じようなお話になろうかと思っておりますけれども、なかなか今のお話のとおり起業される方、起業したいなと思っている方というのはかなり潜在的には多くいらっしゃるのだと思います。今委員がおっしゃったとおり創業したいのだけれど何かから手を付けたらいいのだろうかとか、創業するに当たって既存の企業をマッチングするとなると、それを買い取るのにお金ってどれだけかかるのだろうかとか、起業しようという方は初めての経験ですので、思い悩んでいる方というのはたくさんいらっしゃると思いますので、そのへんのサポートからしていくと、この提言が非常に有効性が出てくるのかなと思いますし、そこらに当たっては、起業を考えている人に向けたセミナーとか、例えばそういったものに金融業界としてもお手伝いできるのかなと思えました。

会 長 ありがとうございます。続きまして委員お願いします。

委員 答申書案を何度も読ませていただきました。また、提言に対する事業案も読ませていただきました。この会議での議論から練り上げられた事業案がコロナ禍において大打撃を受けている市内の中小事業者に幾ばくかでも力強い支援になるのならば、この会議の委員をさせていただいてこの上ない喜びであると存じます。次に重要となるのは、この事業案が具体化されたときに、いかに市内外の事業者に周知させるかだと考えます。前回の会議でもSNSの活用や情報発信の重要性に関してお話がありましたけれど、もちろん今や時代はSNS活用が主流でありますし、その技術開発や運用が本当に重要だと思います。と、同時にデジタルに対してアナログではないですが、紙媒体による情報発信と共有は小樽市においては引き続き大事だと思うのです。というのは、小樽市が今月22日まで受け付けておりました小樽市事業継続臨時支援金について、高齢者を中心に、知らないという人がかなりいたのです。申請期限のぎりぎりまで電話や訪問で制度を知らせて、申請対象の有無や意思確認に奔走しました。連絡がなかったら申請ができなかったという方も実はおられたのです。もちろん、すべてではないと付け加えさせていただきますが、この間の国、道、市のこうした助成金・支援金で同様の出来事が起きています。さらに、この振興条例、振興会議についても同様です。振興条例、振興会議があることについて、知らない事業者が圧倒的です。会員に向けて条例のあらましや議論の経過や方向性について逐一報告をし、意見を求めてきましたが、残念ながら意見が上がることはあまりありませんでした。これはそもそも条例の効果や会議の意味について、その経過や議論についても含めて説明をしてもなかなか理解してもらえないものだと思うからです。助成金、支援金の話以上に込み入っていますし、難解です。私が言いたいのは、ホームページに載せたから、SNSにアップしたからそれでいいというのだけでは、いささか乱暴に感じるということです。札幌以上に事業者の高齢化が著しい小樽市において、紙で見ても分かる、または口コミで広がることをないがしろにしては絶対にいけない。せっかくの事業案が分からないうちに終わってしまっていたとなるということでは、全く意味がなくなってしまう。このことを非常に危惧しております。ぜひ、力を入れていただきたいと思います。

会長 ありがとうございます。続きまして委員お願いします。

委員 提言1の女性復職支援というところで、復職実績に対して補助金を交付するというところがありますが、女性復職ということを目的とするのであれば、もちろん企業にもその補助金制度というのは必要かなと思うのですが、その復職した女性本人にもその支援金の一部が渡るような制度とかそういうことが必要なのではないかなと思っています。やっぱり企業だけが膨らんでも、女性にメリットがなかったらそういう制度ありますよと言っても女性は来ないと思うのですよね。やっぱりその女性にもきちんとしたメリットを与えるべきだなと思います。

会長 ありがとうございます。続きまして委員お願いします。

委員 一地方自治体としては、これらが本当に実行されれば素晴らしいことだと思いますけれども、例えば本来ならば女性復職支援と言ったらちょっとあれですけども、やっぱり人手不足だからこういう言葉が出るのでしょうかけれども、根本的には昔の話しても仕方

ないのですけれども、女の人が復職するというのは人手不足もさることながら、やっぱり旦那さんの給料では食べていけないというような若い世代というのが実情だと思えます。それは国の問題であって、そこを忘れてはいけないということを強く感じました。

会 長 ありがとうございます。委員お願いします。

委 員 今日が一旦の区切りということで、本当に長い間皆さん御苦勞様でしたという気持ちがある前からしてたのですが、その中で振興会議の提言3つ見ました。1番に関してはわが社においても、一応復職前提で結婚をして育児出産、出産の段階ではいわゆる保証をかけて、帰ってきたら子育てが一段落したら戻ってくる前提という形で今女性に関しては募集を続けております。おかげで一応新規の募集関係は何とか達成今年もできましたし、またそういうことは若いうちは分からないですよ。特に高校生は。そのような意識がないので。実際自分が結婚して子育てに入るときに、みなさんビビる。それを会社側から、帰ってくるんだよという前提のような形で教えるということはしています。そうすると安心して、例えば子育てとかに向かえるので、そういう形はやっていますので、そういうのは事業者すべてが取り組んでいただければ、それはいいかな。そのために補助金が出て、そのようなものを活用してやるというような形をやっていただければというのは非常にありがたいなと思っています。提言3のセミナーの開催のところで、SNSが言われてますが、例えば実際にSNSを見る場合と、動画投稿サイトの視聴が、通常のマスコミ関係の大きなテレビ局その他のあれを見るよりも、その時間の方が非常に増えてるとというのは皆さん分かっていますよね。だとするとどうするかというと、それをうまく利用すると、小樽市で例えば何かの劇団か何かと提携して小樽で寸劇を作って、喜んでいただくような動画を作って発信できないかなと思いました。それを安く上げながら、動画投稿サイトは基本的に無料ですから、そういう形をうまく提言しながら、小樽はいい街だよということ、なぜかということ、コロナで今完全に世界中から人の動きがなくなっています。その中で何か飛びぬけたものを作ることになると、使えるコンテンツの中で、SNSというのは形が完全に見えてこない場合があると、出来上りの問題があるので、そこらへんで何か小樽の観光をうまく使えるようなコンテンツをできる劇団でも何でもいいです。高校生でも良いですね。そんなことでもって、世界中に発信してもらおう。実際にコロナが収まった時に、どこへ行こう、小樽へ行こうという機運を作れるような準備を今の段階からやったらどうかなというのはちょっと今日の段階では見てて思ったのですよ。そこら辺はちょっとかかった方が良くかなと思いました。今回の提言の中でそんなところかなと思います。実際に、コロナの影響で観光関係はガタガタです。実際に観光関係だけじゃなくて、市内の業者もどれだけ生き残っているのかという状況にあるわけですよ。完全にビルトアンドスクラップの状態がここ数年の間で出てきたときに、多分1、2年コロナの収束が見えた段階でもう一回これを見直して、データ収集をやり直して、それから立ち直らせなくてはならないというところに準備しなくてはならないなと思いました。

会 長 ありがとうございます。続きまして委員お願いします。

委 員 この中小企業振興会議の提言に対する事業案につきましては、非常によくまとめていた

だいたなと思い、私も特段異議はございません。その中で、提言1の中で自分なりにいいなと感じたのは女性復職支援。ただいま御意見もいろいろございましたけれど、当然入社段階で女性の方には産休ですとかそういうものはきちんと、こういう御時世ですので、きちんと説明した上で入社していただいておりますけれど、実際にそういう事例が何名かございまして、非常に復職してくれたことで事業を進めていく中で非常に助かっている部分というのが多々あります。また、完全に退職してから数年して、お子様がある程度の大きさになっているところで、復職してくれた方も数名おります。やはり即戦力ということと事業を進めていく中で非常に助かっております。そこにこういう支援があるということができればもっといい状況になるのかなと思いますし、ここにも書いてあります若い女性の就職先ということでも選択肢としても増えてくるのではないかなということとはまさに実感として感じているところでございます。

会 長 ありがとうございます。続きまして委員お願いします。

委 員 一年にわたってどうもいろいろとお世話になりました。ものづくりという観点から、小樽ではいろんなものが作られておりまして、商品を作るに当たって、今世の中的には簡便であったり個食であったり時短というか簡単に料理ができるとかそういうものがきつと要求されているのですが、やはりお客様が手に取るときに、パッケージというのが非常に大事なのかなということを感じておりまして、今なかなか市内で物が売れないというときに、小樽市内から例えばもっと視野を広げて、拡大していくとなるとネットであったり海外への進出ということを中心企業でもやっぱり考える時期なんだろうなと。そういう時に小樽ならではの商品をどのようなパッケージで売っていくかということが非常に大きなキーワードになるのかなと考えておりまして、その辺の支援があるということは、ありがたいことかなということで、提言3には非常に後押しをいただければなと思っております。

会 長 ありがとうございます。委員お願いします。

委 員 全体としてこれいいのではないかなという話とあとは、誰がこれを具現化していくのと。やっぱりリードするのは市でしょという話は前回申し上げたとおりでございます。個別にさらに何か言うとしたら、提言1に関しては非常に結構なのですけれども、やっぱり平均給料をアップするという視点は重要じゃないかなと、こう思うのですね。そうじゃないと小樽に残らないでしょということのをそれは考えていく必要があるだろうなと。多少物が高くなっても市内でこう循環しているもの、お金のやり取りがあるものというのはコスト高くてもいいとか、何か視点を必要があると。それから、日本全体のGDPは3位だと。でも一人当たりは20位ぐらいたという話は、儲かっている非常に裕福な人がわずかにいると。大部分は貧しい人だというような構造になっていることを意味しているのではないかなと思うのですね。そこらへんやっぱり儲かっているところからうまくこう、あまり儲かってないところへお金が流れるような仕組みも考えるといいのかなと。これが提言1番に関するものです。提言2番は、起業家ということで先ほどお話がありましたけど、事業の継承という点もやっぱりしっかりここに入れていけないといけない。提言書の中にもあったように思うのですが55%が、後継

者が決まってないという話がありまして、事業継承する後継者を探していくという視点も提言2では必要だろうなと思いました。提言3はこれもう発信方法、情報発信。この中で一番強調されているところ。これには、やはり若者を巻き込みながら、色々手法を模索していくといいのかなと思います。

会長 ありがとうございます。今皆さんからの御意見を聞きながら、私なりにまとめてみたのですが、3つの提言すべてにおいて、概ね賛成であろうということで意見をいただきました。提言1の場合ですけれども、女性の復職に関して言うと、既に実施している企業もおられるということもあって、これはぜひ、小樽でしっかり補助金とかを準備して、これをフォローするというのは非常に大事であろうと。根本的にこれは女性の社会進出を後押しする政策であろうという御意見もいただきました。提言2につきましては、事業継承もそうなのですけれども、できるだけこういったスタートアップ、創業支援に対して、予備軍という表現もあったと思いますが、まだ悩んでいる方と言いますか、創業に対してはまだしっかりとイメージを持っていない方も含めて、支援が受けられるということが大事であるという意見もいただきました。あと提言3ですけれども、パッケージについては、特にネット社会ということを見ると、やっぱりその見た目ですよ。物そのものも当然大事であります、どういう見せ方をするのかということも大事だろうと。その中で特に小樽らしい小樽ならではの取組というのが必要でしょうという意見をいただきました。セミナーの開催については多くの方がその必要性について議論いただきました。特にインフルエンサーとか、動画作り等でもっと幅広くインパクトあるものを発信するというのと、あとセミナー、SNSに関して、我々もうついていけない部分はたくさんあるので、本当に高校生とか中学生ぐらいが一番SNSに詳しいと思いますので、できるだけ彼らの意見を吸い上げて、若い人たちの目線で、どうこれを発信できるかというのが必要かなと思います。先ほど動画作りの話もあったのですけれども、大人の目線で小樽を発信するよりは、若い人たちが本当に自分たちの街を誇りに思っていて、こうアピールしたいという意見を取り入れて、それをPRに使っていただくというのも必要かなと思いました。事務局から何か御意見ありましたらお願いします。

事務局 まず先ほどいただいた意見の中で、起業希望者の潜在的な部分というお話がありましたけれども、今はコロナ禍で創業される方自体が確かに減っているという状況はありますけれども、本当に創業するために何から始めていいかわからないという方も確かにいらっしゃって、今市では、そういう創業を考えているのだけどどうしたらいいだろうかというセミナー「小樽商人塾」というのを実施をしていますので、そういったところでフォローアップできるのかなと思っております。補助金があるので、確かに創業を決めた方は相談に来られますけれども、その創業機運みたいなものをどう醸成していくのかは一番難しい部分ですけれども、商人塾をきっかけにできないのかなと思ってます。それから周知の関係で、紙媒体での共有も大事であるということで、支援金のお話が出ておりました。我々も支援金の申請を22日で締め切りましたけれども、周知については制度を実施するたびに、重要な部分だと思っておりまして、当然市の広報おたる、それからホームページ、これらはもちろんのことですけれども、今回は新聞の折り込みもやりましたし、土曜日のSTVの小樽フラッシュニュースでも情報を流しました。それからFMおたるの中でもやっておりますし、各団体を通じての周知もお願いをしているということ

で、一応考えられる部分はやっておりますけれども、どうしても情報にたどり着かない方はいらっしゃるのかなと思ってます。その辺を、どうやってそういう方に伝えればいいのかというのは、これまで支援金の支給を何回か実施してきましたけれども、やっぱり皆さんの横のつながりみたいなものを御協力いただかなければ、なかなか難しい部分なのかなと思っております。

それで今事業案に対して、いくつか御意見いただきました。我々も意見踏まえて、制度修正できるものについては修正をかけた上で予算要求をしていきたいと思っていますので、皆さんの御意見すべてを反映させることはできないかもしれませんが、その辺は努力して参りたいと思っています。

会 長 ありがとうございます。それでは修正の上、予算化に向けた手をよろしくお願ひしたいと思います。これで、平成30年11月の第1回から、コロナ禍による中断を経て、今日の第10回ということで、市長からの諮問に対する答申を提言という形でまとめることができました。本日をもって一区切りになりますけれども、今後もこの会議において中小企業の振興策について御議論していただくということになりますので、振興会議そのものの今後の議題等について、事務局から提案がありますので、御説明をお願いします。

事務局 <資料4「今後の議題等について」について説明>

会 長 ありがとうございます。ただ今の説明につきまして、何か御質問等はございますか。特にないようですので、案1について、さらに今後の進め方についても、皆さんから御意見を伺いたいと思います。委員をお願いします。

委 員 私個人的に非常にお酒が好きで、この間から気になっていたのが、大学と酒造メーカーの新規立ち上げ。いろんなところで今やっていますけれども、とってもうらやましい思いで見てたので、ぜひ小樽でも進めてもらいたいと思っています。今回は函館でやられたこと、有名な杜氏の方は小樽出身の方なので、ぜひ地元小樽に力を貸していただきたい。そういう方向の話が出ればうれしいと、本当に思っております。

会 長 ありがとうございます。続きまして、委員をお願いします。

委 員 いただいた今後の議題等についての提案内容の案1ですけれども、①にあります産学官金連携による共同研究やものづくりなどの支援の関係につきまして、記載されている中で記載されておりますビジネスEXPO、先達て11月11、12日で開催されて、私も実際に見に行ってきたのですけれども、あの中であれも含めてあといくつかのステップを踏めば事業化可能なんじゃないのかということまで進捗しているテーマとかメニューというのは、実際に現状ないんだろかなというのを会場を回ってみて感じたところです。これから始めるということで検討を開始すると当然時間がかかるという意味で、長期的な取組になるという表現になっているのですけれども、一定程度の進捗が進んでいるものがあれば、あと一押し二押しというステップを踏めば、実現できるものがあればそれを掘り起こしてみるのも手かなと感じました。それから飛びまして今後の進め方

のところで記載しています若手経営者に委員になってもらうというあたりの表現、実際に若手の方の議題に対する斬新な意見への期待もあるのかなという意味ではよい考えだなと感じています。ただ不安要素として想像するのは、実際に先日私仕事で農業の方ですけれども、農業を営む方々のリーダー的な立場の方とお話をする機会があったのですが、その方が言うにはまだ現状皆さん御存じのスマート農業、これの入口で、その方が言うには親父世代が立ちはだかっているというような表現をしております、ドローンで肥料を散布したり、無人のロボットトラクターが田畑を走っていたり、デジタルやAI、パソコンで農業だという世界がその方にとっては自分にはできないなと思ってしまったら、後を引き継ごうと考えている息子がいくら説得してもうなずかないのだそうです。お話をしたその方が、実際私がそうだったということも言っていました。各地でやっている実証実験などの現場を見ると、その可能性に実際感じるものがありまして、それから気持ちというか考えを変えて、依然としてそういう対応をしている親父いわゆる親父世代の方々に、老いては子に従えと言うべというような説得活動しているそうなのですが、農業が商業でも同様の現象が想像できるものですから、冒頭言いました、若手の斬新な意見についていけるか、少なくとも受け入れる、受け止めれるかという覚悟が、あるいは度量があるかというのが、そういった課題もあるのではないのかなと考えてます。もう一つ、多分この会の構成のイメージからだんだん離れていく話になるかもしれないんですけども、学生の参画というのはどうなんでしょうね。テーマに限らず別の企画や検討委員などの場があるのであれば、そういう情報があればお聞かせいただければなと思っていますところですよ。

会 長 ありがとうございます。委員お願いします。

委 員 私の意見としては案2の、現在実施している市の事業の検証を行うというところからスタートしてはいかがかと思えます。この中小企業振興会議も10回を、回を重ねていただいぶ皆さんの意見も拡散してて、ちょっと整理がついてないところもあるのではないかなと、既に市の方で事業をやっているところもあると思えますので、まずはここをしっかり整理した上で、何か不足となっているものがあるのであればそれを補っていくというアプローチの仕方がよろしいのかなと思えます。あと2番の今後の進め方についてということですけども、こちらの事務局の案にある若手の経営者の選出、これ大変すばらしい取組だと思えます。ぜひ若手経営者の方の斬新な意見を聞いていただいて、他の委員の皆様からも出てますけども、SNSですとか、動画投稿サイトも若いの方が得意でございますので、そういった人たちに積極的に参画していただいて、若いうちから市の施策に貢献しているという意識を醸成させることが何より大事だと思いますのでぜひこの方向に進めていただければと思えます。

会 長 ありがとうございます。委員お願いします。

委 員 今後の取り組むべき視点の案の1のところではいきますと、事業化していない課題ということになっておりますけれども、やる必要があることとか、やるべきことというのはやっぱり小樽の特徴のある事をやるべきであって、そういう意味では産学官金連携によるというお話は、小樽にある二つの大きな大学と大学校は、学生たちが中心となって

新しいものづくりをしていくという動きは非常に大事だと思いますし、その動きというのは市外に対するアピールも大きいものだなと感じております。そういったものを実行するためにクラウドファンディングの活用ですとか、いろんなことができるのかなと思っております。それから⑤のところの観光消費の地域内循環とありますけども、色々考えるときに、インバウンドが戻ればとかおっしゃるのですけれども、果たしてそれがいつ戻るのかなというのがはっきりしない。はっきりしないので計画の立ちようもないというのが実態かなと思っております。そういう意味では、観光消費の地域内循環というのは非常に大切であって、少なくとも道内の小樽市以外の観光客をどれだけこれからは呼び込んでいくかっていうところも大事になってくる。インバウンド頼みではなくて、そういう意味ではこの⑤のところは非常に大事だなと感じております。それから、今後の進め方というところで、お若い方の意見を聞く、学生を入れてみてはどうかというのは、もう全くそのとおりでして、私たちも社内で会議をしていますが、若い人たちは時々びっくりするような発言をなさるんですね。というのは、僕ももう50代半ばですけど、求められてることはこういうことかなとか、こういうことって言うても実際無理だよとか、どうしても思ってしまうところがあって、若い人たちは、学生とか学生上がってすぐ働きだした人たちは、何というか、擦れてないというか、そういう感覚になってないので、非常に斬新な発言がたまにある。それが非常に重要なキーワードになったりとかということがありますので、毎回ではないにしても、そういった人たちの話を聞く機会ってというのはぜひあった方が良いのかなと思います。

会 長 ありがとうございます。続きまして委員お願いします。

委 員 今後の議題についてであります。案1案2私は両方とも進めるべきであろうと思います。その上で今後の課題等について述べますが、やはり⑤観光消費の地域内循環です。毎度話をしているので、もう聞き飽きてるかもしれませんが、観光客以外の消費者、地域住民、市民の実態調査をぜひお願いしたいと考えます。高齢化著しい小樽市において、消費者目線の顔の見える商売を求めているのではないかと、その実態を知ることには、小企業と、業者と市民を繋ぐことを目的としたこの条例の運営において、地域内循環経済を作るうえでも有益だと思います。市内のある地域では近所の食料品店が次々と閉店し、毎日の買い物にも困っている高齢者がたくさん出ていると聞きます。このままでは、10年後20年後と小樽市内で買い物難民が増加してしまうのではないかと心配をされます。この条例にのっとなって、地域住民と地元業者が共存共栄していくにはどうしたらいいか、私たち業者団体は地域で何をすべきか、市役所とどう手を携えてこの難局を乗り越えていくか、今こそ考えるときであると思います。今後の進め方について話します。私も若いと思っていたのですが、46になりまして、私よりももっとも若い経営者の皆さんの意見を反映させる必要があろうと私も思います。ただ、先ほど私冒頭でもお話をしました、この条例の効果であるとか、会議の意味についてその経過や議論についても含めて、丁寧に説明をして、理解をいただいた上でこの議論に参加をいただくのが必須であろうと考えます。そうすると、一番端的なのは現在参加をしておられます業者団体の委員の皆さんがそれぞれの団体の若手経営者、ないしは若手の方に声をかけてお願いをして、条例についてある程度レクチャー説明をした上で新たな振興会議に参加をしてもらうことでありましょう。常設ではなく、任意の会議を設ける可能性も

あるようですから、なおさら大切になろうかと思えます。

会 長 ありがとうございます。続きまして委員お願いします。

委 員 私は、案の2の方を進めていった方が良いのかなと思っています。結局この取り組むべき視点①③⑤が残っている中で、これとリンクしている今現在実施されている事業があるということで、そこをきちんとリンクを当てはめて、抽出して一元管理していくことが必要なのかなと、あっちでもやるこっちでもやるではなくて、きちんとまとめて一つの場所で一元管理をしていくということが非常にコンパクトな政策につながっていくのではないかなと思います。そうするとやっぱりコンパクトになるとわかりやすいし周知もしやすいし、すごく作ったものが生きていくのではないかなと、そんなふうに思うので、ぜひ①③⑤にリンクした今現在ある事業の取組とリンクしたところを議論して一緒に議論して足したり引いたりしていくことが必要なのではないかなと考えています。今後の進め方としては、やっぱり若手の経営者の意見というのは非常に大切だなと思っています。やはり、若手の意見というのは非常にたいへん大切だと思うし、仮にその若手経営者と先輩経営者たちが一緒に議論したときに、若手経営者たちが忖度していくような、そんな場を作らないということが非常に大切で、若手さんと先輩さんたちの世代間のカルチャーというのが違って、そこにカルチャーショックが必ず出てくると思うのですよね。でもそのカルチャーショックをきちんと受け止めて、お互いに受け止めて、お互いに良いところとメリットデメリットあると思うので、お互いに受け止めてそして何が一番いいかというのを、忖度なしに決めていける、そんな場を作っていけるのが今後本当に小樽だけではなくて、これはたぶん全国全世界に必要なことではないかなと感じています。

会 長 ありがとうございます。続きまして委員お願いします。

委 員 まず私も案2の方に、せっかく今あるものを、何とかこううまく施策していくと、実際案1の①③⑤に繋がるのではないかと思います。新しいことをやるのはすごくいいことですけれども、せっかく小樽のいいところ、今まで培ってきたものを大事に大事に生かして行って、目的は①③⑤に繋がるようにしていただければいいなと思います。今後の進め方について、コロナの前でしたが、補助金をいただいて3年間小樽の新しいものを作りましょうという取組をしました。そこで小樽のニシンを使って歴史から調べて、3年計画でニシンのすり身を作って、商品化を目指したことがあったのですけれども、みんなで勉強、40回以上ですか、3年にわたって、仕事終わったあと6時からスタートして勉強会40回以上やりました。その中で培ったものは、やっぱり小樽商大に出向かいて、試作品を持って行って、いろいろ意見の交流をいただきましてそうなるくと、私たちそのときのメンバーは30代から60代70代の方までいましたけれども、やっぱり10代20代の方々、そしてやっぱり味覚の違いもあるし、感覚の違いもあるしパッケージもこうした方が、せっかく美味しいんだからこうした方が良いよというような全然私たち年寄りでは気づかないような新しい発見をできた。たまたまそういう場面に出くわしたので、やっぱり若手ということになると、本当にそういう学生、斬新な忖度ない誰にも気を使わない意見の言えるような学生の純粋な意見も聞けれ

ばまたちょっと変わってこれるのではないかなと思っております。

会 長 ありがとうございます。委員お願いします。

委 員 皆さんもうだいたいおっしゃっていただいたので、ほとんど同じですね。取り組むべき視点のうち事業化してない課題についての議論を開始するという点においては、確かに今現在かかっている、またはこれからかかるというところというのはありましたよね。それをとりあえず進めていってそれに派生していけば、とりあえずここにはかからなくてとりあえずいいだろうと。とりあえず今進めているところをきっちり行って、その案の2の検証を行いつつという形をフィードバックをしながらチェックをしていくというやり方が確かにいいのかなと私も感じました。それは皆さんの意見のとおりだなと思いました。それと、それに関しては簡単にそこで済ましていただいて、今後の進め方ですが、各団体には青年部がありますよね。青年部のメンバーを出すというのをははじめ考えたんですよ。ところが青年部自体が高齢化を起こしているという場合があります。冗談じゃなくて。そうすると、JCのほうが常設でやるとすれば、そこらへんのいわゆる青年部の中から特に若手30歳以下、30前後まで、それまでの方がいれば、該当者がいればお誘いすると。枠を決めてお誘いするというのがありますよね。もう一つは、大学生及び高校生の方から、何らかの形でそれに興味を得た人に募集をかけて、来てみませんかというような形でもってお願いするというのもありかなと思いました。それこそ全体のあれなんですけど、我々にインパクトを与えていただくという意味で、そういうようなあれが、それこそいっぱいになっちゃうとぐちゃぐちゃになっちゃうので、好きなこと言っていからという形でもって来ていただいて、話をしていただきたいと。そういうような形であればそれがありなのかなというのが二点、これに関して思いました。

会 長 ありがとうございます。委員お願いします。

委 員 私も今後の議題につきましては、案の2がよろしいかと思えます。やはりまず、現在あるものを検証し、そしてその中で足りないもの、必要な施策が出てきたらそれを追加していくという考え方で進めていくのがよろしいかなと。あと、今後の進め方につきましては、若手経営者を選出してというのもこれは大賛成でございます。それだけでなくで学生という意見もございました。その辺も考慮して進めたほうがいいのかと。ちなみに私共の関係では、一番の若手は50半ばぐらいで残念ながら若手がいませんので、もし若手経営者を出すということであれば、他団体から出していただくしかないのかなと思いますけれど、そういう意味でも学生も入っていただいてやっていただくということはよろしいのかなと思います。

会 長 ありがとうございます。委員お願いします。

委 員 今後の取り組むべき議題ということで、事業化していない課題ということで①の産学官金連携によるということで、小樽市には小樽商大がありますけれども、商大は来年の4月から帯広畜産大学とそれから北見工業大学と北海道国立大学機構、そういう知の巨人

的なものが出来上がるというお話を聞いてますので、自分たちもそのいろいろなことで御指導を受ければ、もっといろいろなことが展開できるのかなということで、非常に期待をしまして、①をできたらいいかなと。それから今後の展開なのですけども、先ほど皆さんが言ったように若手の話を聞くということで、小樽市で市長と商工会議所の会頭が中心になってスクラムミーティングというのをやってると思うのですが、若い人たちが集まってこの職員の中でも若い人たちと一緒に話をするというか、そういうことをすると、格式ばったような話ではなくて、非常に身近な話が聞けて、それが大きい話になっていくのかなということを非常に感じておりますので、是非そういうことをやっていただければいいかなと思っております。

会 長 ありがとうございます。委員お願いします。

委 員 案1案2というのであれば、案2の方が良いかなと。現在実施している市の事業というのが対象になっているのがちょっと気になるのですけれどね、今回の提言に基づいた具体的事業案というようなものを対象にする方が良いのではないかと感じたということで、それで、産学連携に期待する話が2, 3ありましたので、産学連携で言うと、期待しすぎは駄目ですよと。基本的には自分たちがある程度の案を持って、提案していくと。それに対してアドバイスもらうというような気持ちがないと、相談すれば何でもいいものが出てくるのだと思うと、だいたいうまくいかないということをちょっと述べさせていただきます。今後の進め方はこれで結構でございます。

会 長 ありがとうございます。皆さんの意見、大体半々くらいに分かれたのかなと思ったのですけれども、若干案2の方が多かったのかなと記憶をしております。あとで事務局でカウントしたものを教えていただければと思います。皆さんからの意見伺って感じたのですけれども、実施している今の事業の中で例えば産学官連携も含めてこういった取組、視点を入れながら、加味しながらできるのではないかという意見もあったかと思っておりますので、それもちょっと勘案して検討していただければと思いました。あとはその若手ですね。小樽の若手事情、非常によくわかったのですが、やっぱり高齢化が進む街の中でも本当に若い人たちに生き生きと会議も含めて意見を述べてもらい、自分たちが主として街づくりをするんだみたいな、要は主役は若い人たちなんだという機運をいかにもってもらおうかと、こういった意識というのは非常に大事かなと思います。こういった会議でも実は大学生を入れて会議をした経験もいくつかあったのですが、なかなかこういった面々がそろってしまおうと、若い人たちの意見というのがなかなか出しづらいうのも確かにあったかと思っておりますので、御意見のあったとおり若手の意見を別途交流会みたいな形で吸い上げるという、ワーキングなのか交流会なのか、そういう形で、正式な委員会ではない形の、もっとインフォーマルな形の意見聴取の方がいいのかなと聞いて思いました。あとは委員からのお話があったのですが、上川大雪酒造の社長は小樽商大のOBです。もちろん杜氏の方も小樽潮陵出身なのですけども、大学としても今包括連携結んでいまして、来年から正式に大学の中にも実はそういうある種インキュベーションセンターではないですけども、一緒にコラボして取組をする場も設けます。あとは、産学官連携の、三大学連携の話もあったのですが、北見工業大学と帯広畜産大学と小樽商大と一緒にあって、実際に今までできなかった共同研究などができるのかちょっと未知

数ではあるのですが、今まではちょっと手が出なかった案件とか、あるいは、小樽商大というのは文系の商学の単科大学ですので、あんまりテーマ的にも理工系の現在必要なバイオだったり医療だったりスマート農業だったりというところはあまり手を付けられなかったのですが、一緒に組むことでそういったテーマにも取組を開始することができると思いますので、小樽商大だけじゃなくて能開大もそうなんですけれども、こういうところがあったら更に一緒にできるんじゃないかみたいな話は皆さんからおっしゃらないとなかなか一緒にタッグを組むこともできないと思いますので、そういった意味では、やっぱり地元にある大学を有効に皆さんも活用していただくと。それは必要だなと思いますので、これからはぜひよろしくお話ししたいと思います。事務局いかがでしょうか。

事務局 まず資料で、わかりづらい表現になってしまったかなというところがありまして、案1で事業化していない課題と書いたんですけども、ここで要は五つあって、②と④は今回提言という形で事業化したということなので、①と③はそういった意味で事業化していないということを書きました。それで案2が多かったかなと思っておりますけれども、①をやらないということではなく、今やってるビジネスEXPO、これがいいのかどうか、ちょっと発展して何かやるのがいいのかというのは案2を採用した場合でも、その検証をして①に繋げていくということは可能であると考えておりますので、そういったやり方で進めていくというふうに私は理解しましたけれども、そういった意味では案2が多かったかなと思っております。それから進め方ですけども、若手経営者なのか若手職員なのか、この辺はちょっとありますけど、意見を聞くのが必要だということで、どういった形でやるのかというのはこれから考えなければなりませんけれども、要はスポット的にこういった場、ちょっとハードル高いかもしれませんが若い職員の意見を聞く場を別に設けて話を聞くと。その前段としては例えばこの会議でテーマを決めて、そのテーマについても若い人に意見を聞くとか、そういったことも考えられるのかなと思うのですが、細かい部分については引き続き今日の会議を振り返って決めていきたいなと思っております。

会 長 ありがとうございます。これですべての議題終了となったのですが、最後に皆様から何かございますか。なければ事務局から何かございますか。

事務局 事業の方は先ほど申し上げたかもしれませんが、可能な限り修正をした上で予算要求をしていきたいなと思っております。それから答申書ですけども、本日ご了承いただいたということで、答申書の市長への手交が残っております。これにつきましては会長と副会長にお願いをしたいと考えておりますけども、今のところ、12月24日（金）午前9時30分からを予定しております。会長と副会長におかれましては、お手数をおかけしますが、御出席をいただければと思っております。

<事務連絡>

次第3：閉会

会 長 それでは、以上をもちまして、第10回小樽市中小企業振興会議を終了いたします。本日はお忙しい中、誠にありがとうございました。